

モモのカイガラムシ類情報第1号

令和8年4月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

クワシロカイガラムシの防除適期は5月1日から5月4日です。
タイミングを逃さないよう注意しましょう。

1 モモのカイガラムシ類について

モモを加害する主なカイガラムシ類は、クワシロカイガラムシとウメシロカイガラムシです。この2種の雌成虫は、枝幹などに寄生して越冬します（図1）。

例年4月中下旬から産卵が始まりますが、卵や雌成虫は介殻（カイガラ）に覆われて薬液が虫体に付着しにくいため、農薬による防除効果が高い時期は、介殻に覆われていない1齢幼虫の発生ピークです。この時期を逃すと、防除効果は急激に下がります。



図1 クワシロカイガラムシの寄生状況

2 防除適期予測

1齢幼虫の発生ピークが防除適期です。本年の有効積算温度を利用した第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、クワシロカイガラムシが5月1日から5月4日です（表）。ウメシロカイガラムシはクワシロカイガラムシより5日程度早いと予測します。

表 クワシロカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋
本年予測	5/1	5/4	5/5	5/2	5/4
(前年)	5/9	5/12	5/13	5/10	5/12
前年差	8日早	8日早	8日早	8日早	8日早

注) 本年の予測日は、各地のアメダス平均気温を利用して計算。

4月14日までは本年実測値を、それ以降平年値を補正（気象庁の確率予測資料（1か月予報気温））したものをを用いて計算。

前年については、前年気温の実測値を用いて計算。

予測は、今後の気温によって発生ピーク日が前後する場合があります。4月9日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると向こう1か月の気温は高いと予測されていることから、発生ピークが早まる可能性があります。なお、各ほ場での1齢幼虫の発生ピークを正確に把握するには、各自で以下の方法で確認することが可能です。

確認方法：ピーク予測日の5日程前に雌成虫が寄生している部位に白色のビニール

テープを巻き、その上から両面テープを巻きます(もしくは青色粘着板を設置(図2))。捕殺されたオレンジ色の幼虫(図3)をルーペで毎日観察し、発生量を確認します。

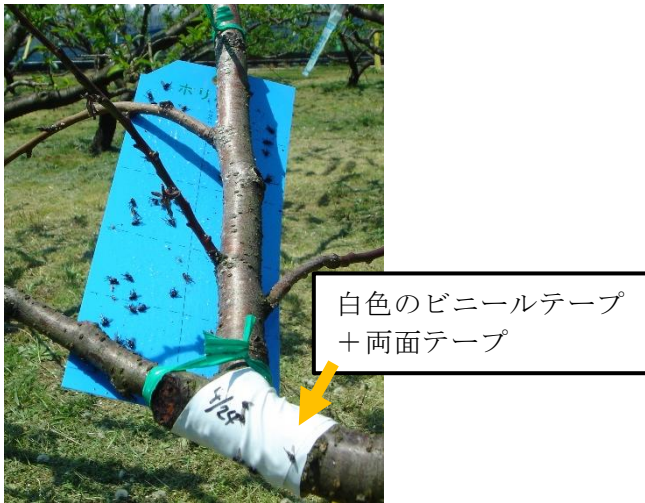


図2 1 齢幼虫確認方法



図3 ウメシロカイガラムシの
1 齢幼虫(体長 0.25mm)

3 防除

防除適期にアプロードフロアブル(IRACコード: 16、適用病害虫名: カイガラムシ類幼虫)やモスピラン顆粒水溶剤(IRACコード: 4A)などで防除しましょう。

発生が多い場合は、薬剤散布1週間後に系統の異なる薬剤で追加防除しましょう。